



信金中央金庫

SCB SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No. 2022-45

(2022. 7. 4)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL. 03-5202-7671 FAX. 03-3278-7048
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@FaceToFace.ne.jp

信用金庫の事業性貸出先数の動向（2021年度末）

とね かずゆき
刀禰 和之

ポイント

- 2021年度末の信用金庫の事業性貸出先数は、前期比1.2%、1万5,198先増加の124万2,731先となり、2年連続で前期を上回った。
- 地区別の事業性貸出先数増減状況は、2011年度末比で四国、九州北部、南九州、中国、近畿などの9地区で増加がみられた。
- 信用金庫別の事業性貸出1先あたり残高を2011年度末と2021年度末で比較すると、①増加が191金庫、②減少は63金庫となった。
- 2021年度末の信用金庫別の事業性貸出先数は、①2,000先未満が90金庫、②2,000先～4,000先未満が73金庫、③4,000先～6,000先未満が36金庫、④6,000先以上は55金庫となった。

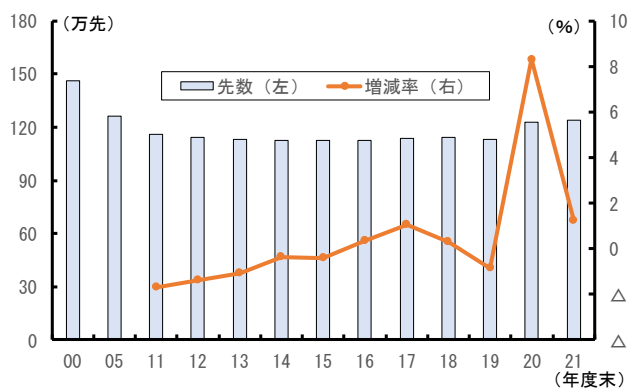
※本稿では、事業性貸出先数を貸出先数－地公体向け貸出先数－個人向け貸出先数で算出

1. 全国の状況

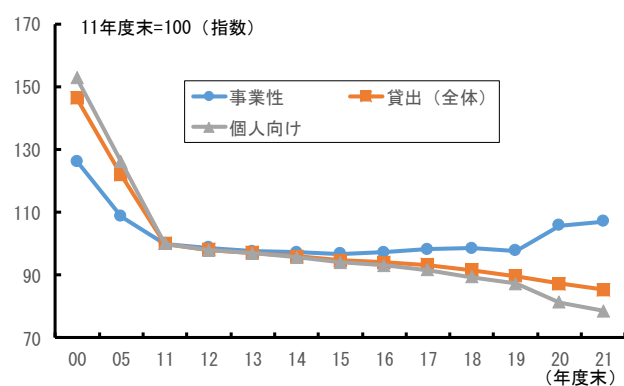
2021年度末の信用金庫の事業性貸出先数は、前期比1.2%、1万5,198先増加の124万2,731先となった（図表1）。事業性貸出先数は中小企業数の減少などから減少傾向にあったが、コロナ禍の資金繰り支援を背景に2年連続で先数が増加している。なお1先あたり残高は2011年度末の35.6百万円から2021年度末には42.7百万円に増加した。

2011年度末を100として指数化し事業性貸出先数と個人向け貸出先数の変化状況を比べると、個人向け貸出先数が78.4になった一方で、取引先本業支援の強化やコロナ対応融資の充実などから事業性貸出先数は107.1に増加した（図表2）。

（図表1）事業性貸出先数の推移



（図表2）事業性と個人向けの先数変化



- （備考）
1. 本稿では、他業態との合併等を考慮しない。
 2. 本稿では、切捨ての関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
 3. 図表1から5まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2021年度末の地区別の事業性貸出先数は、近畿、関東などの9地区で2011年度末比増加し、北陸と東北で2011年度末を下回った（図表3）。地区別の1先あたり残高は、近畿が50百万円を超える一方で、九州北部と南九州は30百万円を下回った。この要因に不動産業向け貸出の比率があり、総じて同比率の高い地区では1先あたり残高も大きい。

（図表3）地区別の事業性貸出先数

（単位：千先、%、百万円）

地区	00年度末	05年度末	11年度末	20年度末	21年度末	11年度末対比		1金庫あたり 先数	1先あたり 残高
						増減数	増減率		
北海道	63.5	55.0	53.2	56.2	56.2	2.9	5.5	2.8	41.1
東北	65.3	51.5	44.8	45.2	44.4	△ 0.4	△ 0.9	1.6	36.7
東京	317.9	285.6	261.5	271.7	275.7	14.1	5.4	11.9	45.6
関東	266.4	234.8	214.7	232.1	236.1	21.3	9.9	4.8	37.7
北陸	45.1	34.2	29.9	27.6	27.2	△ 2.6	△ 8.8	1.8	36.4
東海	241.5	219.4	197.1	201.4	203.4	6.3	3.2	5.9	46.9
近畿	286.8	236.0	217.3	234.5	239.7	22.3	10.2	8.2	50.4
中国	68.5	59.9	57.6	63.7	64.0	6.4	11.1	3.2	34.9
四国	23.6	17.7	18.1	20.8	21.1	2.9	16.5	2.1	34.7
九州北部	32.1	27.3	27.8	31.6	32.3	4.5	16.2	2.4	28.4
南九州	49.0	35.6	34.8	39.1	39.1	4.3	12.3	3.0	28.0
全国	1,464.0	1,260.9	1,160.2	1,227.5	1,242.7	82.4	7.1	4.8	42.7

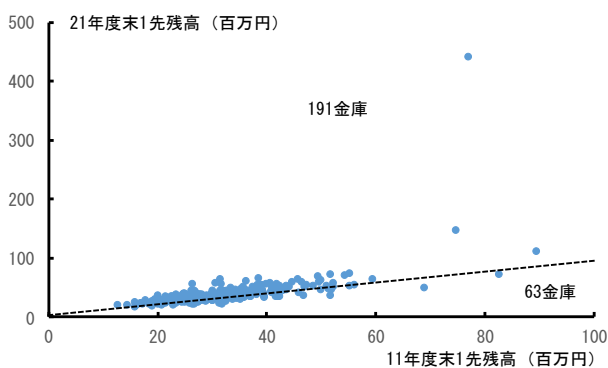
（備考）沖縄県は全国に含む。

3. 信用金庫別の状況

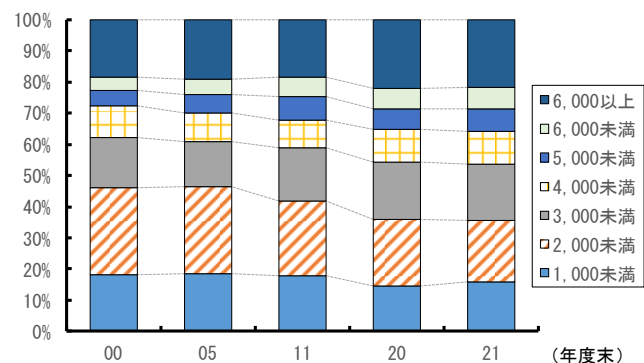
信用金庫別の事業性貸出1先あたり残高の変化状況を2011年度末と2021年度末で比較すると、①残高増加が191金庫（構成比75.1%）、②残高減少は63金庫（同24.8%）となった（図表4）。ちなみに1先残高が1億円以上の信用金庫は3金庫ある。

2021年度末の事業性貸出先数は、①2,000先未満が90金庫（同35.4%）、②2,000～4,000先未満が73金庫（同28.7%）、③4,000先～6,000先未満が36金庫（同14.1%）、④6,000先以上は55金庫（同21.6%）となった（図表5）。なお、2011年度末から事業性貸出先数を伸ばした信用金庫は175金庫あり、うち50%以上の増加が9金庫あった。

（図表4）事業性貸出1先あたり残高の変化
（11・21年度末）



（図表5）信用金庫別の事業性貸出先数



以上

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。